港・水辺の風景　みなとの歴史にふれる　みる・遊ぶ　公園・みち

西エリア

戸田川緑地周辺　A1

戸田川の両岸に広がる名古屋市西部で最大の公園。「健康とスポーツの里」をテーマとしている。市民・企業・行政の協働により豊かな森を育てる「なごや西の森づくり」も行われている。また、平成23年(2011)から、南陽地域ふれあいまつりが開催されている。

❶農業文化園・戸田川緑地

南地区は、農業文化園、とだがわこどもランド、近隣農家が育てた野菜を販売する陽だまり館、芝生広場、バーベキューを楽しめるピクニック広場がある。中央地区には パターゴルフ、おもしろ自転車などの遊具で楽しめるサービスセンター、とだがわの森、ファミリースポーツ広場、とだがわ生態園などがある。

❷とだがわこどもランド

こどもたちが日常生活のなかで触れる機会が少なくなった「水」「緑」「土」を自然と太陽のもとで思い切り感じ、のびのびと遊べるように名古屋市唯一の大型児童センターとして平成8年(1996)に開館。

❸石橋

県道鳥ケ地名古屋線にある福田と西福田を結ぶ戸田川に架かる橋。慶長年間名古屋城築城の際、石垣材を運んでいた船の一艘が戸田川に迷い込み、悪天候のため石材もろとも、沈没した。後日、村人たちはその石材を引上げ石橋を架けたといった由来話がある。

戸田川緑道　A1・A2

およそ1kmを遊歩道として、戸田川沿いに整備された戸田川緑道は、地元の方の散歩コースとして親しまれている。この緑道にはソメイヨシノ、カワヅザクラやサルスベリなどが植えられており、時期によってさまざまな美しい景色が楽しめる。

田んぼアート会場　B2

田んぼアートとは、葉の色の異なる古代米などを使って、広大な田んぼに絵を描く取り組み。南陽地域は、平成23年(2011)から名古屋市内で唯一田んぼアート制作を行っている。毎年7月上旬ごろに見ごろを迎える。

関戸家頌徳碑　A1

茶屋後新田を所有していた関戸家は、戦後の自作農創設特別措置法が施行されると、小作人に土地を安価で分譲した。このような温情に地元の人達が感謝して建立したもの。

鬼頭景義・勘兵衛宅跡　B1

新田開発や治水事業を行なった愛知郡八田村の豪農・鬼頭景義とその子孫(勘兵衛を名乗る者が多い)は代々ここに住んだため、この屋敷は勘兵衛屋敷と呼ばれた。第2次世界大戦で建物のほとんどが焼失し、現在残っているのは長屋門のみ。

福田行在所碑　B1

明治13年(1880)、明治天皇が京都府御巡幸のおり、鬼頭家で昼食をとった。このとき、海東郡津島村の山田庄次郎が泥亀9匹を天覧に供し、そのうち5匹が陛下に買い上げられたといわれている。

七里渡灯台跡　B2

庄内川、新川と日光川が合流して伊勢湾に注ぐこの地は、その昔、熱田から桑名へ向かう海上七里の渡船の航路にあたっていた。航行の安全を図るため灯台が建てられ、渡船が夜に停泊するための標識として毎夜点灯された。現在は、跡地を示す史跡名勝標札が設置されている。

藤前干潟【ラムサール条約登録湿地】B3

庄内川・新川・日光川河口に位置する、伊勢湾奥部で唯一残された大規模な干潟。春・秋・越冬期には、シギ・チドリ類が採餌や休息を行い、その数は日本最大規模。冬季にはロシア極東、アラスカなどから多くのカモ類が渡来する。平成14年(2002)に「ラムサール条約登録湿地」となった。

藤前活動センター　B3

干潟に触れ合うことのできる自然体験型学習施設。観察会も定期的に開催されており、干潟にすむ生き物を観察することができる。

南エリア

稲永公園周辺　C3

❶稲永公園

各種運動施設に連絡する道路にはトウカエデやイチョウなどが植えられており、紅葉を楽しめる。松林の間を抜ける道を歩いていくと、野鳥観察館と稲永ビジターセンターの間に平成14年(2002)に藤前干潟がラムサール条約湿地に登録されたことを記念したモニュメントがある。公園東側からはモニュメントに続くバリアフリーの道も通っている。

❷ラムサール条約登録湿地藤前干潟プロムナード

あおなみ線「野跡」駅から、藤前干潟に臨む稲永公園やその周辺に、環境学習のできる看板等が設置されている。生き物への興味・関心や新しい発見を生む看板等には、二次元コードもあり読み取ることで鳥の鳴き声を聞くこともできる。

藤前干潟プロムナード事業ロゴマーク

❸稲永スポーツセンター

外観は水鳥の親子をイメージしたデザイン。2つの屋内競技場に弓道練習場・軽運動室・トレーニング室などを備えた大規模なスポーツセンター。隣接地には、港サッカー場もある。

❹永徳スリップ

航空機メーカーが所有していたスリップ(水上飛行機を海へ下ろすための傾斜面)で唯一現存するものとなっている。このスリップの北の部分は取り壊されているが、現在でも幅31m、長さ70m余のコンクリート製の傾斜地が残っている。

❺野鳥観察館

庄内川・新川河口に広がる干潟には多くの水鳥が渡来する。春・秋はシギ・チドリが干潟に群れ、冬はカモが水面を埋め尽くす。その他にも季節ごとに様々な水鳥が集う姿が観察できる。

❻稲永ビジターセンター

藤前干潟の保全やラムサール条約について学べる総合的環境学習施設。国産材を使用した暖かみのある開放的な室内からは、干潟を一望できる。

稲永東公園　C3

稲永東公園では、市民と企業が協働した緑化1円玉募金の取り組みにより、昭和50年(1975)に大規模な植樹が行われた。現在、園内には「婦人の森」を表す記念碑と、その経緯を記す看板が立てられている。

10号地灯台　C4

昭和14年(1939)に建てられガス灯の明かりで港を見守ってきたが、第2次世界大戦で多くの砲弾を浴び、弾痕を残したまま保存されている。名古屋港で戦争の傷跡を残す唯一の施設。立ち入り禁止区域にあるため、船から見ることができる。

金城ふ頭　C5

❶ロサンゼルス大通・メキシコ大通・南京大路

ポートメッセ名古屋の西側に北西～南東に走る通りが南京大路東側に南西～北東に走る通りがメキシコ大通、北側に東西に走る通りがロサンゼルス大通である。

❷六朝帝王陵の麒麟像

南京大路沿いにあるこの像は、「シスター・シティ・フェア・ナゴヤ'82」に出品展示するため南京市により製作され、名古屋市との末長い友好を祈念して贈呈されたもので、南京市にある皇帝の墳墓に置かれた麒麟像(高さ3.13m)の原寸模型。

❸トゥーラの戦士像

メキシコ大通入り口にあるこの像は、昭和53年(1978)名古屋市とメキシコ市との姉妹都市提携を記念し、メキシコ合衆国から贈られたもので、トルテカ王国の都「トゥーラ」のピラミッド上に建つ神殿の天井を支えていた戦士像の模型。

名港トリトン　B5・C5・D4・D5

世界的規模の海上斜張橋で、伊勢湾岸自動車道の途中にある3つの橋の総称。
名港西大橋(赤):橋長758(なごや)m
名港中央大橋(白):橋長1,170m
名港東大橋(青):橋長700m

中央エリア

百曲街道　B1・C1

熱田新田の干拓が行われた後、この新田の北側に自然にできた道路で、くねくね曲がっていることから「百曲街道」と呼ばれた。港区史跡散策路では中川区尾頭橋から港区正徳橋付近までとしている。
明正一・二丁目付近では今も名残が残っている。

荒子川公園　C2

荒子川公園ガーデンプラザからフェニックスアイランドまで南北1kmに広がる、各種の緑化見本園と広場を備えた緑豊かな総合公園。ラベンダー園は名古屋最大級の規模を誇り、6月になると一面紫に染まる。また、荒子川両岸には約1,000本のサクラが植えられており、3月下旬には見事な桜並木が現れる。秋には、街路樹・公園樹見本園で黄色に色付いたアメリカフウの並木道の散策ができる。

稲永街園のカナリーヤシ　C3

稲永交差点北角にアフリカ原産のカナリーヤシが2本ある。このヤシは別名フェニックスともいう。

十一屋川緑地・中之島川緑地　C2・D2

河川環境整備事業により、十一屋川・中之島川を埋め立てて整備された緑地。荒子川を挟んで東西に広がっている。ケヤキ、トウカエデ、サクラなどの樹木があり、せせらぎが流れる散歩コースとなっている。

愛知県立惟信高等学校正門門柱　C2

昭和4年(1929)ごろ建てられた旧愛知県惟信中学校正門。主門柱と脇門柱各2本ずつからなる鉄筋コンクリート造洗い出し仕上げで、外観はセセッション風に直線で構成され、柱頭部には幾何学模様の装飾が付いている。平成29年(2017)に国の登録有形文化財に認定された。

写真で見る 港区区民まつり

平成3年(1991)
つどいの広場西側通路でゴーカート

平成8年(1996)の港区区民まつりのチラシです。その年の区民まつりの名称は「みなときらめき広場」でした。平成9年(1997)から現在の名称「みなと遊友フェスタ」になりました。

平成3年(1991)
毎年オープニングを飾る民謡踊り

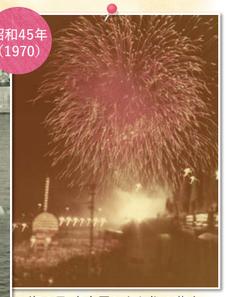
平成4年(1992)
毎年見られる大迫力の放水演技です。平成12年(2000)に引退をした金鯱号が写っています。

平成4年(1992)
つどいの広場にジャンボ迷路が出現!

平成6年(1994)
今ではあまり見ることのできないアドバルーンが空に浮かんでいます。

写真で見る 海の日 名古屋みなと祭

昭和45年(1970)
筏師一本乗り大会



海の日 名古屋みなと祭の花火

写真で見る 名古屋まつり

昭和32年(1957)
名古屋まつりでの神楽の様子

昭和40年(1965)
名古屋まつり港区行事として開催された南陽町合併10周年記念演芸大会

東エリア

港北公園　D2

港区役所を囲む東西に長い公園。テニスコートなどがある。

❶津金文左衛門胤臣頌徳碑

熱田前新田の広大な新田を開拓した津金文左衛門胤臣の功績をたたえ、昭和27年(1952)に建てられた。

❶尾張磁器発祥之地碑

津金文左衛門胤臣の援助により新しい製磁法を確立した、加藤吉左衛門・民吉父子の功績をたたえ、昭和13年(1938)に建てられた。

❷タイムカプセル

港区制施行50周年を記念して作られた時計台と方位標。下には区民・区内小中学生の作文などが収納され、50年後(2037年)に開封予定となっている。

❸平和橋

昭和12年(1937)に「名古屋汎太平洋平和博覧会」がこの地で開催されることに伴い、港北運河を渡る橋として架けられた。現在、運河は埋め立てられている。

ガーデンふ頭　D2・D3

海の日 名古屋みなと祭　昭和21年(1946)に戦後の復興祭として始まった「海の日名古屋みなと祭」。名古屋随一の花火大会など多彩なイベントが「海の日」を中心として行われる。

港区区民まつり　平成2年(1990)に前年の名古屋市制100周年記念「世界デザイン博覧会」をきっかけに「区民まつり」を実施。それ以来港区では、毎年11月3日の文化の日に実施されている。

西側

❶名古屋港水族館

「南極への旅」をテーマにした南館では、日本の海から深海、赤道、オーストラリア、南極までの5つの水域にすむ生物を紹介。北館では「35億年はるかなる旅～ふたたび海へもどった動物たち～」をテーマに、シャチ・ベルーガ・バンドウイルカなどを飼育展示。別棟の「カメ類繁殖研究施設」では、ウミガメの生態を解明する研究を行っている。日本最大のメインプールでは、イルカのパフォーマンスやシャチのトレーニングを見ることができる。

❷名古屋港ポートビル

海に浮かぶ白い帆船をイメージした高さ63mのビルで、名古屋港のシンボル的存在。海洋博物館(3・4F)をはじめ、展望室(7F)、講堂、会議室などを備えている。

❷名古屋海洋博物館

名古屋港の歴史をはじめ、現在の姿や港・船・貨物などを多岐に渡って紹介している。

❸南極観測船ふじ

昭和40年(1965)から18年間、南極観測を支えてきた砕氷船。昭和60年(1985)から南極に関する「船の博物館」として公開中。航海中の船内の様子を再現した展示や、南極の自然、南極観測などについて紹介している。「ふじ」から見下ろす芝生広場は南極大陸をかたどっている。

❹旧食糧庁サイロ

モニュメントとして整備されている食糧庁サイロ。戦後、輸入穀物を受け入れるために建設されたが、平成13年(2001)「歴史的な構造物」としてその一部が保存されている。

東側

❺奥田助七郎の胸像

名古屋港の建設と発展に尽力した愛知県の土木技師。名古屋港の生みの親として、現在もガーデンふ頭の入り口から名古屋港を見守っている。

❻中央ふ頭灯台灯ろう

昭和15年(1940)から22年間、名古屋港に入港する船の道しるべとなっていた灯台の発光部が、展望広場に残されている。

❼リトル・マーメイド

デンマークのコペンハーゲンにある「リトル・マーメイド」像の2分の1サイズ。名古屋市制100周年、世界デザイン博覧会を記念して造られた。

❽モアイ像

チリとの親善・友好を記念して名古屋市民によってイースター島にあるモアイ像が再現された。

❾姉妹港紹介プレート

臨港緑園内には、名古屋港と定期航路で結ばれている世界に生育する樹木が、3つの地域(ヨーロッパ・アフリカ、アメリカ、アジア・オセアニア)に分けて植えられている。また、ロサンゼルス港・フリマントル港・ポルチモア港・アントワープ港と名古屋港との姉妹港提携を、それぞれ記念したプレートがある。

築地口交差点の噴水　D2

築地口交差点の南西角に、南極観測船「ふじ」の予備錨を使い、昭和61年(1986)に整備された噴水。水盤は南極大陸をかたどっており、池の周囲には南極の氷山を模した17個の花崗岩が置かれている。

港橋広場公園周辺　D2

❶港橋

1号地埋立地と2号地埋立地との連絡橋として明治39年(1906)に建設され、老朽化のため昭和11年(1936)に改築された。その後、江川線の拡幅にあたって移築され現在の橋になった。御影石の親柱と高欄が醸し出す橋の風情は、傍らの桜の木とともに地域に親しまれ、港橋広場では毎年4月に桜まつりが開催されている。

❷みなと・夢ロード

住民の生活を守るために、高波による海水の侵入を防ぐことを目的とした昭和40年(1965)に完成した防潮壁。その後、南側の2号地に新しい防潮壁が完成し、旧防潮壁と呼ばれるようになった。現在は、港まちづくり協議会が、アーティストと連携し、西築地小学校児童の卒業制作として壁画を描くことで旧防潮壁の修景事業に取り組んでいる。

❸壁に埋め込まれた金庫

かつてこの地にあった旧銀行ビルの取り壊しに伴い、ビル内にあったレトロな金庫が、その後に建った築地シティ住宅の壁面に埋め込む形で保存された。

❹名古屋港跳上橋

昭和2年(1927)に臨港鉄道を延伸した際に架けられた可動橋。当時は線路の一部として活躍しており、船が通行する際には橋桁を上げて水路への入り口を開けていた。昭和61年(1986)に役目を終えた後、平成11年(1999)に国の登録有形文化財に認定され、橋桁を上げた状態で保存されている。
※現在、敷地内関係者以外立入禁止。稲荷橋から見ることができる。

中川運河界隈　D2

❶中川運河沿いの遊歩道

名古屋港潜艇センターから中川橋、水族館横のきれいなプロムナード。散歩をしたり、ベンチで海を眺めたり、夜はライトアップされたシートレインランドの観覧車を見ることができる。遊歩道から、黄色のいろは橋・赤色の中川橋を見ることができる。

❷中川口通船門

名古屋港と中川運河の水位が異なるため、通船門を設けることで水位を一定に調整し、船を航行させている。これは、パナマ運河と同じ仕組みで、日本に現存する数少ない施設となっている。

❸名古屋港少年少女ヨットトレーニングセンター

ヨット貸し出し・帆走訓練・ボートヤードなどが利用できる。

❹名古屋港漕艇センター

中川運河にあるボートを通じてスポーツを楽しむ総合的なクラブハウス。

クルーズ名古屋
中川運河・ささしまライブから名古屋港・金城ふ頭を航行する水上バス。ららぽーとや名古屋港水族館などの人気スポットを、水上からしか見ることができない名古屋の景色を味わいながら、効率良く移動できる。

～航路図～

築地灯台　D3

名古屋港開港当時の明治40年(1907)からある貴重な灯台で、現在のものは、昭和32年(1957)にRC造で造りかえられた2代目。名古屋港の歴史を今に伝える貴重な灯台。
※現在、敷地内関係者以外立入禁止

船見閘門　E4

昭和2年(1927)、貯木場の出入り口として造られた。前後1組の閘門で海と区切り、貯木場の水位を一定に保つことにより、潮に左右されず木材を搬出入でき、当時この設備は全国でも先進的で理想的なものであった。現在は、貯木場は埋め立てられて、貴重な産業遺産として1基のみ残されている。